

**令和6年度 第2回 国指定史跡東京湾要塞跡整備委員会
議 事 録（抄録）**

日 時 令和6年（2024年）11月8日（金）10時00分～12時00分

場 所 消防第2会議室

参加者

委員	後藤 治（委員長）	：工学院大学理事長 工学院大学総合研究所教授
	荒木良子	：市民公募（米海軍横須賀基地施設管理部環境課自然環境/文化財担当）
	大内田史郎	：工学院大学 建築学部建築デザイン学科教授
	小野田滋	：公益財団法人鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長
	蒲谷衛一	：市民公募
	鈴木 淳	：東京大学大学院人文社会系研究科 教授
事務局	横須賀市教育委員会教育総務部長 古谷 久乃	
	教育総務部生涯学習課	
	課長 杉山賢一、主査 川本真由美、主任 磯口健太郎	
	建設部公園管理課 係長 青木 修、担当者 福田 航大	
	建設部公園建設課 主査 木村 健	
	（株）千代田コンサルタント 柴山、福井、佐藤、中村	
欠 席	松井敏也	：筑波大学 世界遺産専攻 保存科学 教授

1. 開会

委員長挨拶

2. 審議

【1-1 現地踏査結果】

事務局（千代田コンサルタント）から概要説明

○指摘事項

蒲谷委員：隧道内には天井部の煉瓦が縦に積まれている箇所がある。

後藤委員長：構造的な問題ないと思われる。地震時に煉瓦がずれることがある。地震発生後には点検が求められる。

【1-2 隧道補修数量】

事務局（千代田コンサルタント）から概要説明

- ・補修材はH29年度に実施した現状調査時に採取・試験したコア試料（煉瓦＋目地材）の圧縮強度 $11\text{N}/\text{mm}^2$ 程度を目標にプレミックス材料を制作することを想定している。表面仕上げ材も同様の材料とする。

○指摘事項

後藤委員長：煉瓦と目地は合わせて強度と同等になるように補修するのが一般的であるため、補修材の強度 $11\text{N}/\text{mm}^2$ 程度を目指すことで良い。材料は無収縮モルタルという認識で良い

か。

事務局（千代田）：無収縮モルタルである。

【２－２ 表面剥離進行止めの検討】

事務局（千代田コンサルタント）から概要説明

- ・千代ヶ崎砲台跡の保存科学調査結果を踏まえ、保護剤の検討を行った。先行試験位置は、弾薬元庫の階段室（非公開）と旧第一砲台砲側弾薬庫のそれぞれ天井を選定する。

○指摘事項

大内田委員：千代ヶ崎砲台跡での保存科学調査結果を教えてください。

→事務局（生涯学習課）薬剤塗布した箇所塩類の析出が顕著に出てしまった。

蒲谷委員：先行試験実施箇所だが、旧第一砲台砲側弾薬庫は点灯窓が４つあるが風通しはよくないのではないか。隧道と条件が異なるのではないか。

→事務局（生涯学習課）：隧道状になってはいないが、点灯窓もあり、点灯室入り口部分も開口しており、外気には常に触れている箇所だと考えている。

鈴木委員：煉瓦が剥落した部分（抜け落ち部）において、剥落した後の煉瓦は健全なのか。

→事務局（千代田）：剥落した後の煉瓦の表面では、基本的に新たな剥離等は確認されていない。

後藤委員長：煉瓦の剥落は今回の補修の対象外でもよいが、原因については松井委員にアドバイスをいただくとよい。

鈴木委員：見学者への被害の観点から天井部のみを対策の対象としているにもかかわらず、側壁部も数量を算出するのはなぜか。

→事務局（千代田）：現時点では対象外としているが、将来的に対策する可能性も考慮し、部位を分けたうえで数量を整理する予定である。

後藤委員長：危険度は確かに低いかもしれないが、側壁部でも剥離が著しい箇所では対策を行ってもよいのではと思う。また、本件については、本日ご欠席の松井委員に詳細を確認してもらいたい。

→事務局（生涯学習課）：承知した。

【２－３ 漏水対策】

事務局（千代田）より概要説明を行った。

- ・対策優先順位の「Ⅱ 隧道西側（弾薬元庫側）の漏水の排水対策」については優先度を１ランク下げた。

○指摘事項

後藤委員長：「Ⅱ 隧道西側（弾薬元庫側）の漏水の排水対策」については「Ⅰ 隧道上部広場からの雨水浸透防止対策」を行ってから、漏水状況の経過観察をしてからするというのを記載したほうが良い。

小野田委員：雨水浸透防止対策（広場整備）について、流末からは自然流下となるのか。また、流末部における掘削深度はどの程度か。遺構への影響はないのか。

→事務局（千代田）：自然流下となる。流末部の掘削は400mm程度とし、暗渠（φ150程度）

による排水を考えている。

→事務局（生涯学習課）：流末部は自然地形であり遺構はないと考えている。

【2－4 排水対策】

事務局（千代田）より概要説明を行った。

○指摘事項

後藤委員長：基本設計から変更した排水設備を明確に記載すること。また、緩勾配となる第一砲台塁道で2系統にすることは遺構への影響は大丈夫なのか。

→事務局（生涯学習課）：遺構への影響を確認するための試掘調査を1月下旬～2月にかけて実施する予定である。

後藤委員長：現在の排水に欠陥（溢水）があるので、対策が必要な範囲において地山を掘削することはやむを得ない。欠陥があるものをそのまま放置しておくほうがよろしくなく、保存のため活用のための工事の計画である。

鈴木委員：今の話と同様だが、今回の工事では地山掘削はやむを得ない。

後藤委員長：工事後の管理だが、流末部での落ち葉の清掃掃き出し等、指定管理への依頼内容・仕様については明確にしておく必要がある。

【2－5 弾薬元庫劣化進行防止対策】

事務局（千代田）より概要説明を行った。

・基本設計時の提案だった「木製支保工＋ネット工」は検討を行ったが施工が困難なため、「足場工＋ネット工」および「足場工＋型枠工」を提案する。

○指摘事項

後藤委員長：基本設計では重いものの運搬が困難な現地の特性から、木製を想定していた。ただし、木製がマストなわけではない。足場材（単管等）なら軽いため問題はない。

→事務局（千代田）：「足場工＋ネット工」であれば、壁を支えるサポート材を設置することも可能。

後藤委員長：壁の自立性を強化することからサポート材の設置に問題はない。サポートをするならネットは安いもの（漁網）でよい。サポートをしないのであれば、FRPメッシュのような固いものが考えられる。

→事務局（千代田）：「足場工＋ネット工＋サポート工」を第一候補として検討する。

鈴木委員：本来は対策をする吹き抜け部分に階段があった。現在は吹き抜けの南側二階には入れなくなっているが、足場工の設置により南側二階に入れるようになるのは良いことである。

荒木委員：補強後は公開しないのか。

→事務局（生涯学習課）：公開する予定はない。

3. 報告

猿島第二砲台弾薬庫崩落対策の実施計画について、事務局より報告を行った。

指摘事項は特になし。

次回の委員会は、実施設計を取りまとめて3月に開催することとした。
以上をもって終了。